

経営比較分析表（平成30年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	23	対象	ド透 未 訓 力	救 臨 が 感 へ 災 地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	44,010	非該当	7：1	

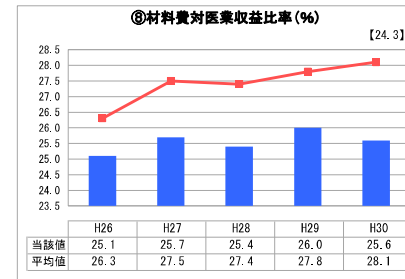
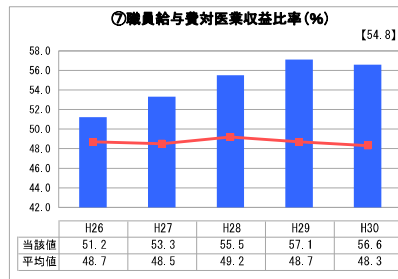
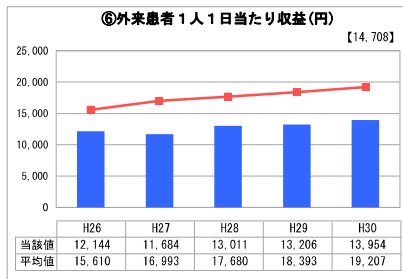
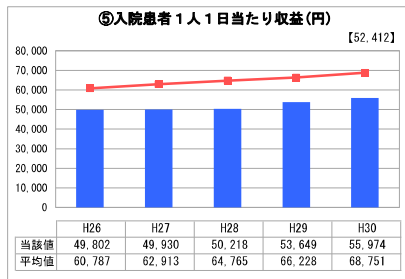
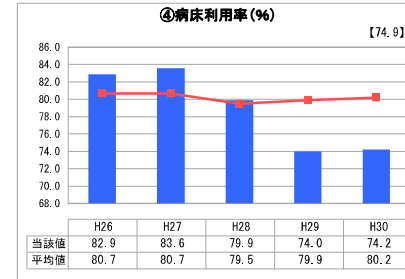
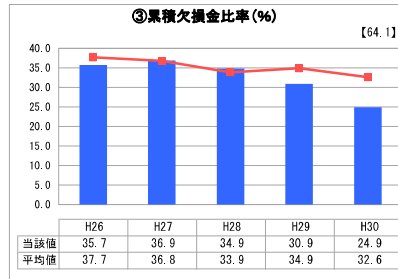
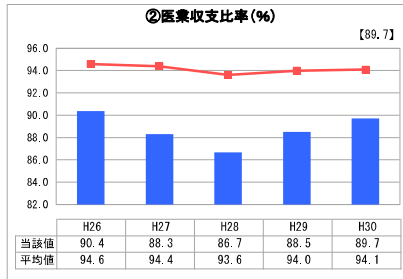
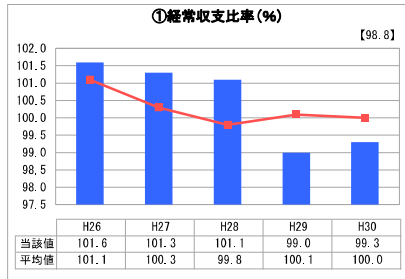
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

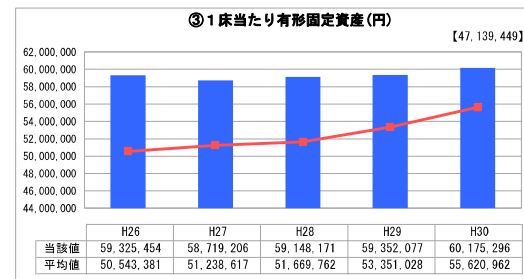
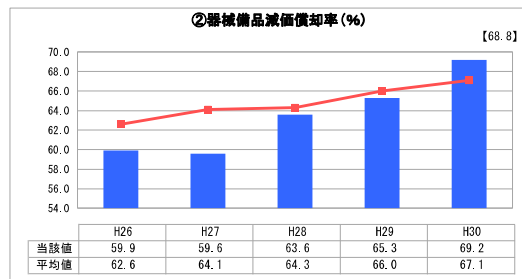
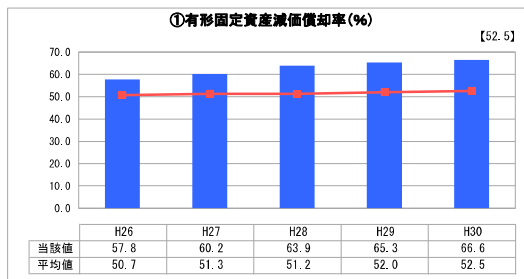
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
470	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
46	4	520
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
417	-	417

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
平成22年度	-年度	-年度

Ⅰ 地域において担っている役割

公立置賜総合病院は、直轄二次保健医療圏の中核病院として高度・先進医療を提供するとともに、小児医療、周産期医療、精神医療などの専門医療を担うほか、県の臨床研修指定病院として研修医を育成するなど教育病院の機能も担っている。

また、併設している置賜地域唯一の救命救急センターの後方支援を行いながら、二次・三次の救急医療や災害拠点病院の役割を担っている。

Ⅱ 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「患者1人1日当たり収益（入院・外来）」の増に伴い「医業収支比率」は1.2ポイントの改善となったが、「経常収支比率」は2年連続で100%を下回る結果となった。入院・外来ともに精神科を有する病院であるため、他病院と比較して低い単価となっている。

収入の増加に伴い、「累積欠損金比率」は改善している。「病床利用率」は、H29年度に行った病床再編に伴い、53床を休床していることから、実際の稼働率より低い数値が計上されている。給与費の単価は類似病院と同等であるが、収入が少なく「職員給与費対医業収益比率」は平均を大きく上回っている。

2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」について、前年度より1.3ポイント増加、平均値よりも14.1ポイント上回っており、平均より老朽化が進んでいる。「器械備品減価償却率」については、前年度より3.9ポイント増加しているが、ほぼ平均値となっており、器械備品の更新計画をつくり、計画的に更新している結果と思われる。

有形固定資産のうち、簡単に更新することができない「建物（施設・設備）」の老朽化が進んでいると見ることができ、今後は、設備更新や大規模改修などの更新費用が増加することが見込まれることから、施設・設備の計画的な改修修繕が必要である。

全体総括

地域医療構想を背景に、急性期機能の特化と病床再編等を行い、患者単価を向上させてきているものの、職員給与費の増加や建物老朽化に伴う費用の増加の影響も大きく、2年連続で「経常収支比率」は100%を下回っている。

今後も延患者数の減少は進むと予想されるため、「1人1日当たり収益（入院・外来）」を上げることと同時に、医業費用の削減を推進することで医業収支を改善し、経営基盤の強化に努める必要がある。

経営比較分析表（平成30年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜長井病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	透 訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	16,247	第2種該当	1 5 : 1	

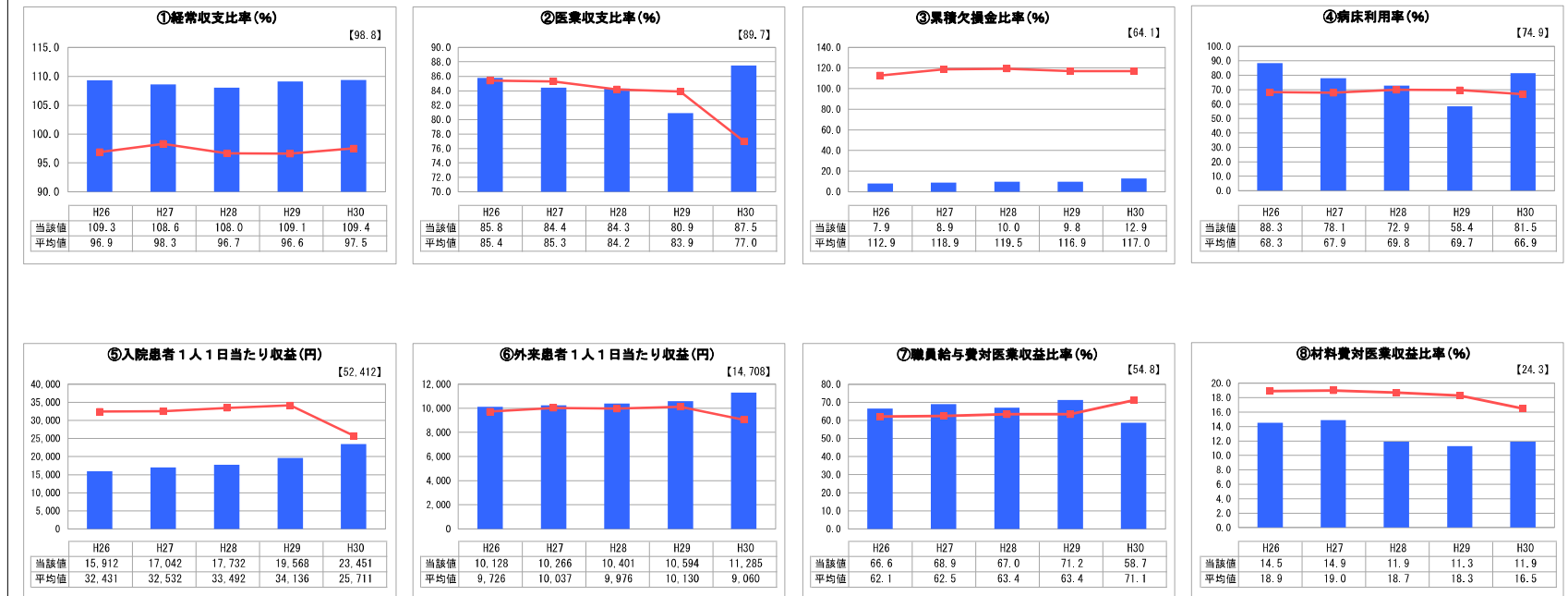
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

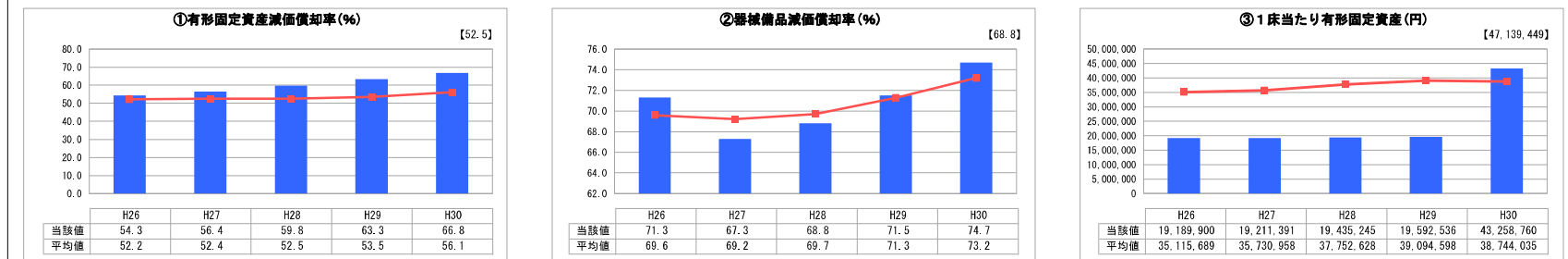
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	50
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
50	-	50

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）		
再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
平成22年度	-年度	-年度

I 地域において担っている役割

公立置賜長井病院は、高度・先進医療を提供する公立直轄総合病院と密接な連携や相互補完を図りながら、市町村区域を診療圏域とし、より住民に身近な医療施設として初期医療や回復期・慢性期医療の提供を行っている。

また、『長井市地域包括支援センター長井病院支所』・『長井市訪問看護ステーション』・『医師会による『地域在宅医療連携室』の院内開設に伴い、地域医療との連携に取り組んでいる。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「経常収支比率」は、前年度より0.3ポイントアップ、平均値よりも11.9ポイント上回っており、引き続き100%以上を維持している。「医業収支比率」については、平均値よりも10.5ポイント、前年度より6.6ポイントアップしている。要因として、精神科床60床の廃止による、「1人1日あたり収益」の増加と、職員給与費の減少が挙げられる。

「職員給与費対医業収益比率」の減少についても、前述した精神科床廃止による同様の影響と考える。

2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」について、前年度より3.5ポイント増加、平均値よりも10.7ポイント上回っている。

「器械備品減価償却率」については、前年度より3.2ポイント増加、平均値よりも1.5ポイント上回っている。

平成12年度に既存病院を再編統合した際、既存財産をそのまま組合に移管しているため、築50年を超える建物や法定耐用年数を大きく超える医療機器があるなど保有資産の老朽化が進んでいる。

全体総括

平成30年度決算について、「経常収支比率」は引き続き100%を上回ることができた。

また、「医業収支比率」、「職員給与費対医業収益比率」においていずれも改善され、前年度末に精神科床60床を総合病院に統廃合したことが大きく影響している。

しかし、今後も延患者数の減少は進むと予想されるため、引き続き医業収支を改善し、経営基盤の強化に努める必要がある。

また、病院建物の耐震性不足や老朽化等に伴う建替えにあたり基本設計を完了した。今後ECI方式による病院建設に着手し、令和4年のオープンに向けて各担当部署との連携を密にして取り組んでいく。

経営比較分析表（平成30年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜南陽病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	－	透 訓	－
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
－	8,082	第2種該当	15：1	

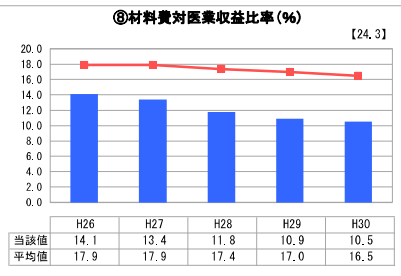
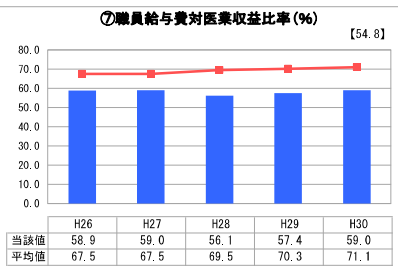
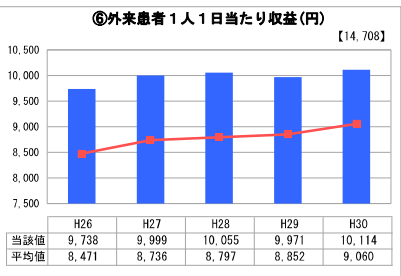
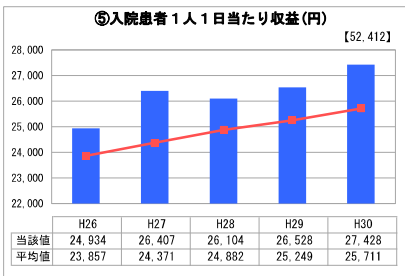
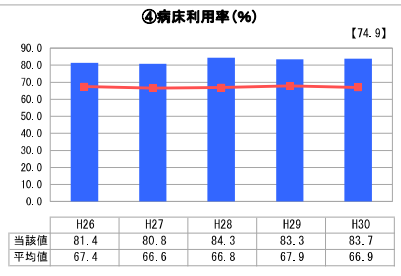
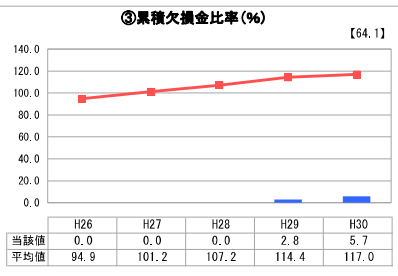
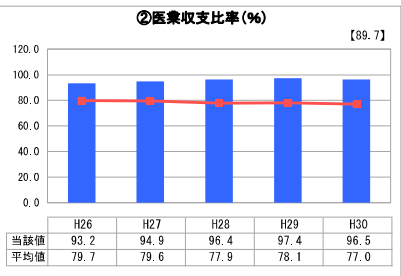
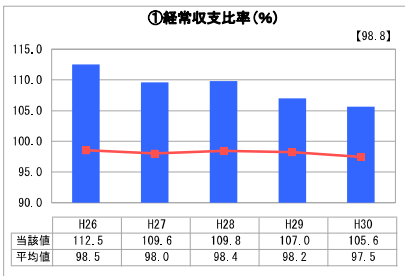
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 1…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

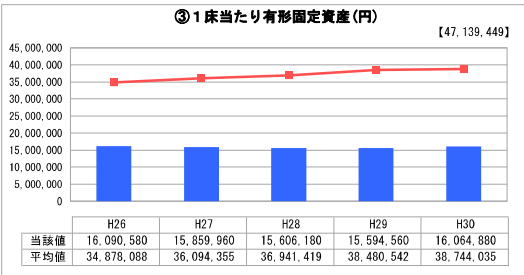
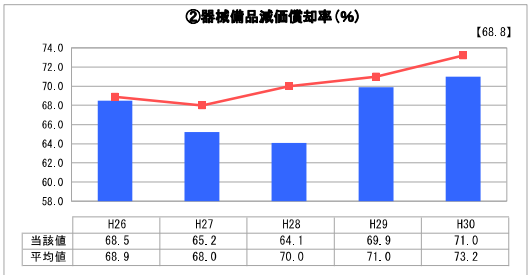
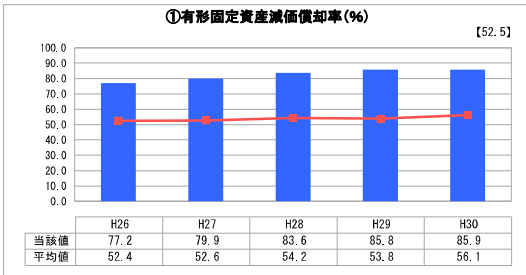
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
50	－	－
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
－	－	50
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
50	－	50

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

情報・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
平成22年度	－年度	－年度

I 地域において担っている役割
公立置賜南陽病院は、高度・先進医療を提供する公立置賜総合病院と密接な連携や相互補完を図りながら、市町村区域を診療圏域とし、より住民に身近な医療施設として初期医療や回復期・慢性期医療の提供を行っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について
「経常収支比率」は、前年度より1.4ポイント下がったものの、平均値よりも8.1ポイント上回っており、引き続き100%以上を維持している。「医業収支比率」は、前年度より0.9ポイント下がったものの、平均値よりも上回っている状況を維持している。「入院・外来患者1人1日あたり収益」は、病院における各種収益改善の取組みにより平均値を上回っている。

2. 老朽化の状況について
旧病院については、建築後約50年が経過し、耐震性能不足や著しい老朽化など施設面及び設備の更新等が大きな課題であったが、令和元年6月全面改築により新病院での診療開始している。鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）地上2階

全体総括
建物の耐震性能の確保や患者の療養環境の改善が図られた新病院は、山形県地域医療構想や各種将来推計を踏まえ、総合病院との機能分化と連携、在宅医療の推進と連携強化についてより強化する医療施設として整備されている。今回の新病院改築事業に伴う減価償却費・関連経費の増加等により、医業収支比率の低下が見込まれ、また、改築事業に伴う企業債償還金の負担増が見込まれることから、更なる収入の確保・経費の削減に取り組んでいく。